

…夢職人となった児童生徒の応募作品から ① 学校と地域が協力してできること…

※ ふるさと港北小中学生会議へ寄稿いただいた児童生徒さんの作品の中から、「夢職人」として選考認定させていただき、小中学生会議に参加した16 作品をテーマ別に掲載しました。

『投稿いただいた作文をほぼ原文のまま掲載しました。』

らくがきからすてきな絵

大綱小学校 五年 豊平 いずみ

わたしの家は、大倉山駅の近くにあります。学校の通学路にはトンネルがあり、そのトンネルにはらくがきがあります。そのらくがきは、ここ5年ぐらいずっとあります。ずっと前に書かれたものもあれば、最近書かれたものもあります。

わたしは、そのらくがきを最初は消したいと思っていました。けれどもみんなと一緒にそのことを話し合ってみると、

「消すと、きれいになってももったかきなくなるんじゃない？」などと、いろいろな意見が出ました。そこで、わたしは、らくがきを消すのではなく、らくがきを一度消し、その上から地域の人や学校のみんなでそのトンネルにらくがきとはちがう、「すてきな絵」を描いたらいいと思いました。

なぜならば、すてきな絵を描けば、通る人もやさしい気持ちになれるし、らくがきを書いた人も、「もう書かない。」という気持ちになると思うからです。

なので、わたしは地域のために、地域全体でトンネルをすてきなトンネルに変えたいと思います。



## にぎわう町へ

綱島東小学校 五年 成田 紗由美

わたしは、港北区が好きです。いつもにぎやかな町で何か安心感を感じます。そして、こんないい町にたくさんの方がきて、もつとにぎやかに、そしてみんながこの町を好きになってほしいです。そこで、わたしはこんなことを考えました。

まず、港北区にいる人が、港北区の好きな場所を描いたポスターをいろいろな駅にはれがいいと思います。そしたら、港北区に初めて来た人もこんないい場所がたくさんあるんだとか、こんないい町なんだななどと思ってもらえます。そのポスターを集めるために、学校でチラシを配ったり、呼びかけたりすると思います。

また、町にゴミが多いときたない町なんだと思われて、観光客が減ってしまいます。それを解決するために、学校でクリーン作戦をやったり学校で支援を集めてごみ箱作ったりしたらいいと思います。さらに、一人ひとりが気をつけるために環境保護教室を開いたり、ポスターを作ったりしたらいいと思います。

こうして、良さを伝えたり、町をきれいにしたりすると観光客や人口が増えて、にぎやかになると思います。



ぼくの好きな町 港北

城郷小学校五年 松岡 良樹

ぼくは、毎年夏休みが始まるとすぐに区の交通安全ポスターを必ず描きます。ポスターは町の交通安全にとても役に立っていると思います。

それで以前、新聞で見たのですが、例えば自転車を停めてはいけない場所に、地域の子どもたちが描いたポスターをはったら、自転車を停める人が減って、きれいな町になったそうです。

ぼくの住んでいる町も、路上駐車や自転車のマナーの悪い人を目にするので、学校などでポスターを描いて地域に貼ればよいのではないかと思っています。

特に大人の人は、子どもが見ていることを忘れてほしいのです。ぼくの通っている塾前の道路では、お迎えの時に、違法駐車が多く、危ない思いをしたことがあります。子どもを塾に行かせて勉強させているのに、親が法律を守っていないなんて、ぼくはおかしいと思います。

でも、大人の人に向かって注意するのは、こわいのでポスターでうつたえることが効果的だと思います。

二つ目のアイデアは、町がきれいだと事故や犯罪が減ると思うのです。花などを植えたりゴミを減らしたりして環境をよくしたらどうでしょうか。港北区のミズキーちゃんの絵をつけたプランターやゴミ箱をつくれば区のPRにもなると思います。

ポスターも環境に取り組み活動も、どちらも学校と地いきの人々が協力してできることだと思います。

ぼくの通っている城郷小学校では、城郷クリーン作戦や城郷フェスティバルのバザーなど、地域の人と一緒に活動し



ていることがたくさんあります。だから、ぼくの住んでいる鳥山町は、安心してくらせる大好きな町です。



港北区の街をもっと良くするために

大曽根小学校 五年 松本 うらら

わたしは、学校と地域が協力してできることはたくさんあると思います。そのなかの一つは、み力づくりです。港北区内の工場や公共施設へ見学に行き、そのみ力をポスターや新聞にして一年に一度ほどけいじしたり、または、地域で学生の中の代表のポスターを作って配ったりするのも良いと思います。

次は、公園の美化です。子どもは、大人とは違い、遊んでいるときの目線でわかるからです。その子どもの目線で、遊具などここが危ないなどがわかるようになるという良い点があります。

それに、近くの公園に当番をわりあてて、花を定期的に植えれば良いと思います。

み力作りのほかに、港北区をにぎやかにするにはトレッサのような商業施設へのイベント広場に、学校の学習展示をしたり、学校同士の交流を深め現在行われている運動対決のほかに、合同で文化祭や合唱や合奏、げきなどの活動をするより良くなり、にぎやかにしたいと思います。

そのほかに、福祉関係のことについては、学校や地域の人たちが自主的に老人かいこしせつに定期的に行ったりして、一日の生活を聞いて発表したり、合唱や合奏、げきやろう読、または、何かを作つてプレゼントをしたりします。老人かいこしせつにいる方々にサプライズをして交流を深めることによって、毎日を楽しく過ごせるようになります。

ぜひ、この活動に取り組んでいき、港北区の人たちを明るくして、街全体を活気あふれるものにしていききたいです。



## 小学校の開放

新吉田小学校 六年 相原 虎太郎

先日、横浜市は待機児童が0になりました。

これは、全国でも横浜市だけなのです。いいことだと思います。

ぼくが、自転車で駅に出かけると保育園が昔と比べて、ここにもできたのかというくらい増えています。

しかし、その保育園には園庭がせまかったりなかったりします。保育の子たちがれつになり、公園に遊びに行くのをよく見かけます。その度に、もっと広々と遊びまわれる場所はないのかと思います。

そのために、ぼくは学校で使用していないときの校庭、体育館の開放をしてはどうかと考えます。

なぜなら、校庭や体育館で保育園児が遊ぶことによって、学校に対する不安もうすれるし、広々と遊ぶことができるからです。

また、レクリエーション大会を開いたり、図書室での読み聞かせなどを行ったり、交流を深め、こんな小学校に入りたいと思われるような小学校をつくりあげていくことができます。

このようになると、ぼくたち小学生は今まで以上に責任感のある仕事をし、園児からあこがれの存在でなくてはいけないので、そのようになるための努力をしていくようになります。

保育園児と小学生双方に利点があるので、校庭、体育館の開放をぜひ、実現させてほしいです。



港北区をよりよくするために

新田小学校六年 沖田 怜

僕は、港北区の問題点をいくつか考えてみました。その中から、交通安全と防犯という二つの課題について僕は、自分たちで出来ることを考えてみました。

まずは、交通安全についてです。例えば、僕の住んでいるマンションの玄関は、両側を生垣で囲まれているので、この場所に面している道路の左右は見えません。また、この道路はせまくて数センチ出ると車道になってしまいます。僕は、このマンションを飛び出して車にひかれそうになったことがあります。

ほかにも、近くのスーパーに面している交差点でも車が事故を起こしている現場を見たことがありますし、道路わきの歩道を歩いていてもひやっとした場所がいくつかあります。このようにぼくがいつも使っている道でも住んでいなければわからない危険な場所がいくつかあります。

そこで、僕たち生徒がこの経緯を持ち寄って一つの『交通安全マップ』としてまとめることができればより生活に身近なものができるし、それぞれの生徒が注意するようになり、交通事故が減らせると思います。

続いて、防犯についてですが、時々学区内でも不審者が出る場合があります。これについての対処法は、まず子ども一〇番にかけこむことになっています。

しかし、どこにあるのかわかっていなければかけこむことができません。なので、近くの子ども一〇番をチェックしておき、プリントなどにまとめるのと良いと思いますし、実際子ども一〇番にかけこむなどして訓練したらより効果が上がると思います。

二〇二〇まで、交通安全と防犯のことについて考えましたが、僕はこのように自分たち自身が行動することによって港北区がよりよくなると思います。



## 港北区の活性化の為に

日本大学中学校 二年 嶋川 竜大

僕が港北区の活性化の為に、学校と地域が協力してできることを三つ考えました。

一つ目は、学校の行事として年一回から二回「ごみ拾い」をすることです。僕自身港北区に住んでいるのですが、歩いていてタバコや空き缶などの「ごみ」が捨てられているのがよく目に付きます。それらを拾う活動をすれば、ポイ捨てをするような人たちも考えを改め、港北区もきれいになると考えました。

二つ目は、日本大学中学校の行事(体育祭や文化祭など)に地域のお年寄りを招待することです。今の学校を見ていると、地域のお年寄りとの関わりが薄いように感じます。学校の行事にお年寄りを招待することで、生徒とお年寄りの方々のふれあいにつながればよいと思います。そして、お年寄りの方々が楽しめる地域活性化につながると 생각합니다。また、昨今は、お年寄りの孤独死が問題になっているそうです。招待をすることで学校とお年寄りの方々のつながりを深めて、孤独死の防止ができれば良いと思います。

三つ目は、二つ目に関連して、昔遊びの体験や戦争時の講和をお年寄りに手伝ってもらおうというものです。先に挙げた二つなどは今では、あまり知る人はおらず、なかなかできないものとなっています。そこで、長生きされているお年寄りに来ていただくことで生徒たちが貴重な体験をすることができ、喜んでいただけたらと思います。

以上、三つが僕の考えです。港北区が活性化することを願います。



地域との繋がり大切さ

大綱中学校 三年 安岡 美結

囲碁・将棋部の部員である私は、昨年度、大綱中学校で開かれた

『囲碁・将棋を楽しむ会』に出席しました。その会で、私は高齢者の方々から小さい子どもまで、たくさんの方と囲碁を打ちました。

碁盤をはさみ、繰り広げられる会話はとても楽しかったです。普段の生活では地域の方々と実際に触れ合うことの少ない私たち中学生にとつて、とても貴重な体験でした。

私は、この会で囲碁を通して得た地域との繋がりをもっと強いものになりたいと思いました。

そこで、私が考えたことは、学校がもっと積極的に地域の方々と触れ合う機会を増やすことです。私たち生徒が近くの公園をきれいにしたり、幼稚園や保育園にいきお手伝いをしたり、『囲碁・将棋を楽しむ会』を年に一回ではなく、月に一回にする、などです。机に向かってペンを走らせるだけでなく、実際に体を動かして行動することで、普段の学校生活では学ぶことのできない、地域の方々への日頃の感謝の気持ちや自分の行動に対する責任感など、人として大切なことを学ぶことが出来ると思うのです。

このように、地域の方々との絆が深まれば深まるほど、一人ひとりが暮らしやすい環境になるのではないかと思います。

港北区が今よりさらに、笑顔の絶えない明るい町になるためには、地域との繋がりが大切なのだと思います。

